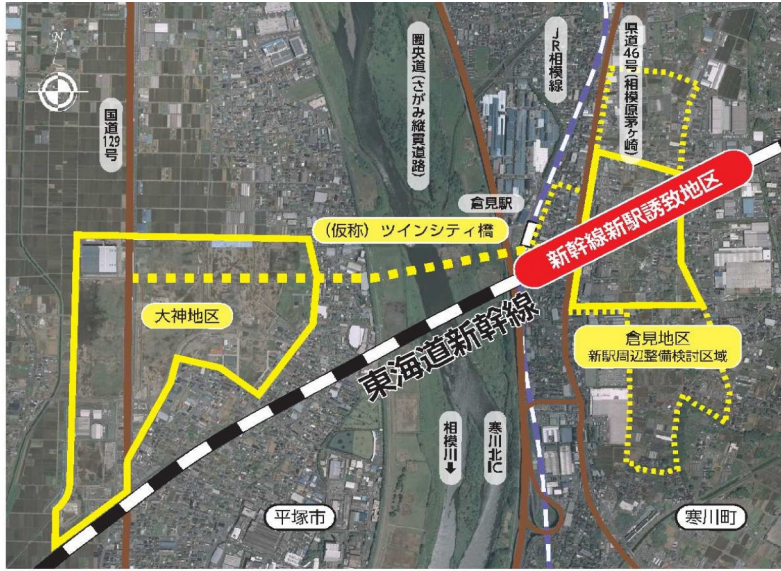




わたなべ 渡部りょう通信

発行
渡部りょうとつくる平塚
平塚市代官町13-11
電話0463-79-8497
FAX0463-79-8498
info@watanabe-ryo.net
https://watanabe-ryo.net

1979年生まれ(43歳)、二児(8歳と1歳)の父。花水小、浜岳中、江南高校、神奈川大学卒業、慶應義塾大学大学院修士課程修了。2015年にステージ4の舌がんを患い、舌の半分と首のリンパ節を切除する大手術を乗り越える。2017年に全日本スノーボード技術選手大会準優勝。平塚市職員を経て、2019年に市議会議員に初当選。教育民生常任委員会委員。



国土地理院の空中写真(令和元年撮影)を加工して作成

ツインシティ大神地区土地区画整理事業—平塚市

膨大な費用や時間がかかるため、それまでに都市交通の利便性を高める必要があります。このため、デマンド交通の導入が先に必要であると考えられます。デマンド交通とは、バ

まだ見通しは立っていない状態ですが、今後、寒川町倉見地区に新幹線新駅誘致や相鉄いずみ野線の湘南台—倉見間延伸の構想もあります。また、大神地区にはトランジットセンターが設置される計画もあり、県央における一大交通ハブになる可能性があります。しかし、トランジットセンターの完成には膨大な費用や時間がかかるため、それまでに都市交通の利便性を高める必要があります。

現在、公立保育施設の3分の1でおむつを持ち帰っています。おむつの持ち帰りは保護者にとって負担であるため、3月議会で同僚

保育施設のおむつ持ち帰りを改善へ

デマンド交通は比較的導入しやすいシステムであるため、トランジットセンターの整備に必要な時間や費用をかけずに、早期に取り組むことができます。

「白米」を3歳以上にも拡大を求めてまいります。

議員に改善できないか質問してもらいました。また、市長はおむつのサブスク(定額制)を支援し、手ぶら保育を推進しようとしています。また、市長はおむつのサブスク(定額制)を支援し、手ぶら保育を推進しようとしています。

平塚市と寒川町で一体的なまちづくりを行う「ツインシティ計画」を巡り、平塚側の新たな街の完成が間近となっています。4月28日にはイオンモールが運営する大型商業施設「ジ・アウトレット湘南平塚」が開業します。

約150店が出店予定で、日常使いできる施設を特色として打ち出し、生鮮食料やスポーツ、アウトドア専門店を充実させ、平日も利用しやすくしたいとしています。湘南ベルマーレと連携し、地域とコラボし

ジ・アウトレット湘南平塚は4月28日開業 ツインシティ大神地区

たいイベントも実施します。また、市図書館と連携した子ども向け図書館コーナーも設けられます。

デマンド交通の早期導入を

後援会のご案内
渡部りょうを応援してくださる後援会員を随時募集しています。後援会にご入会いただいた皆様には、市政報告(無料)の送付、および後援会行事のご案内をさせていただきます。市政報告の配布やポスター掲示のご協力も大歓迎です。皆様からのご入会を心よりお待ちしております。TEL 0463-79-8497 FAX 0463-79-8498 Mail info@watanabe-ryo.net

渡部りょうが考える主な政策 ハード整備からソフト施策へ



次世代への投資を

子育て支援はすべての世代にメリットがあるのです。

子育てしやすいまちとして、近年注目を集める兵庫県・明石市では、子育て支援で人口が増え、税収や地価も上昇、新たな財源で施策を充実させられています。

平塚市長は新たなハコモノばかり作っていますが、ハード整備などの土木費を大幅に減らし、ソフト施策の民生費を増やすべきと考えます。



次女と画家・江口ともこ展にて

子育てしやすいまちへ

平塚市の2020年の出生率は1・20と、全国平均の1・34を下回っています。この数値を見ただけでも、平塚市は他の自治体と比べても、子育てしにくいまちなのではないかと思ってしまうと思います。

明石市の2020年の出生率は1・62です。明石市の主な子育て支援策は、「医療費、保育料、おむつ、給食費、遊び場」の5つの無料化です。

これらを実現することとは当然として、さらに、家庭で保育したい人、保育園に申し込めない月60時間未満で働きたい人が子どもを1時的に預けたい時に、ベビーシッターや一時預かりを利用する際の補助も求めていきます。

教育支援が充実したまちへ

2022年度の全国学力テストの結果が全国と神奈川県を平均を下回り、2021年度の不登校児童生徒数が過去最多になったのは、教育支援が足りていない現れではないでしょうか。

子ども1人に1台のタブレット端末が配備されたことで、教員と子どもが1対1の関係構築やすくなりまし

た。従来の一律一斉授業に対して、「自由進度学習」を取り入れるこ



厚木市北部学校給食センター視察

とで、子どもたちの主体性を引き出し、感動や好奇心を生む学びの場を提供できます。

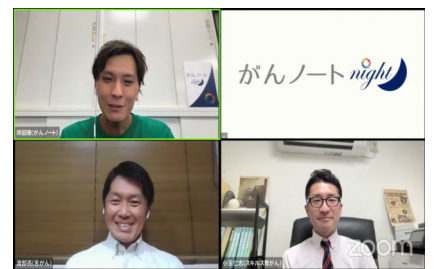
また、不登校問題に対処するために、相談体制の充実、校内フリースクールの設置、フリースクールの授業料の補助で、学びの選択肢を増やし、多様な個性を尊重する教育環境へと変えていきます。

病氣や障がいがあっても誰もが暮らしやすいまちへ

がん患者の3分の1が現役世代です。私は7年前、36歳でステージ4の舌がんに患いました。当時、娘は生後6カ月、子どもを残して死ぬことへの絶望感と仕事では閑職に回されたと感じて疎外感を抱きました。

予想しない出来事に困っている人に寄り添うのが政治の役割ではないだろうか、これが私の政治家としての原点です。

平塚市は2019年の障がい者の割合を5・



2022年1月 がんノートnightに出演

7%と推計。さらに、障がい者認定を受けられなくても日常生活に支障を感じる人も相当数います。

病氣や障がいがあっても人生をより豊かにすることはできると思っています。今の社会は何をするにも健常者と障がい者で分けられ過ぎています。ハードとソフトの両面でバリアフリー化を目指します。



四万十市のデマンド交通を視察

車がなくても生活しやすいまちへ

最近、高齢者ドライバーによる交通事故のニュースをよく聞くようになりました。2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、超高齢化社会となります。75歳以上のドライバーによる死亡事故の割合は、75歳未満の人と比べて約3倍にも上ります。

しかし、駅が一つしかない平塚市では、車がないと不便なことも事実です。コミュニティバスやデマンド交通を導入して、車に頼らない自由な移動の実現を目指します。

また、毎朝のように駅立ちしていると、4年前と比べて杖をついた方が多くなったと感じます。中心市街地のバリアフリー化、まちなかベンチや商店前サイクルラックの設置を進め、車を使わずに歩いて移動できるまちな